

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：32809

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K10755

研究課題名（和文）看護学生の職業的アイデンティティ確立を促進する学習経験について

研究課題名（英文）Learning Experiences that Promote the Establishment of Professional Identity in Nursing Students

研究代表者

近藤 純子（Kondo, Junko）

東京医療保健大学・看護学部・准教授

研究者番号：20642375

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果としては、EAFONSポスター発表より、アクティブラーニングの教育手法を取り入れていることが、知識量の増加や新しい見方に気づき、多角的な視点の獲得を支援する可能性のあることが示唆された。収集データ分析にて、職業的アイデンティティと主体的学びの姿勢、学習経験の構造化について論文投稿を準備中である。更にEAFONSポスター発表内容に関連する論文も予定している。研究期間全体を通じての研究成果は、現在投稿準備中の論文に表現され则认为。専門職としてキャリアを積む際に重要となる職業的アイデンティティを高めるために、看護基礎教育が効果的に機能するための要素を提起した点である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義や社会的意義については、研究成果の公表を一部しか行えていないため、部分的であると考え。しかし、専門職としてキャリアを積む際に重要となる職業的アイデンティティを高めるために、看護基礎教育が効果的に機能するための要素をアクティブラーニングや学習経験など、学習の点から提起した点は意義あると考える。

研究成果の概要（英文）：The results of this study, based on the EAFONS poster presentation, suggest that incorporating active learning pedagogical techniques may support an increase in the amount of knowledge, awareness of new perspectives, and the acquisition of multiple perspectives. We are preparing to submit a paper on professional identity, attitudes toward independent learning, and structuring learning experiences based on the analysis of collected data. In addition, we plan to publish a paper related to the content of the EAFONS poster presentation. We believe that the results of the research throughout the entire research period will be expressed in the paper that is currently being prepared for submission. The research findings throughout the study period will be expressed in a paper that is currently being prepared for submission, which will be published in the Journal of Nursing Education and Training.

研究分野：看護学

キーワード：職業的アイデンティティ 動機づけ アクティブラーニング 学習経験 看護学生

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

当初、アクティブラーニングなど学生の主体的学びを促進する手法が取り上げられ、その主体的学びの姿勢獲得の効果指標の一部として学習経験が着目されていた。申請者らが教育に当たっている看護学生は看護職を志して入学する者が大半で、その学習経験は看護職としての職業的アイデンティティに影響すると考えた。本研究は、初年次教育における看護学生の主体的学びの姿勢獲得により促進される学習経験を把握し、どのような学習経験が看護学生の職業的アイデンティティの形成に寄与するかを明確にしたいと考えた。本研究成果により、看護学生の主体的学びの姿勢獲得の促進および、職業的アイデンティティの形成に効果的な教育内容の検討が可能になると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、看護学生の職業的アイデンティティを促進する主体的学びの姿勢獲得の実態とその作用を実証することを目的として、「成長への動機づけ」と「アクティブラーニング」、「学習経験」、「職業的アイデンティティ」の実態と関連を検証する。

3. 研究の方法

フェーズ 1 では、文献レビューと調査表の作成を行った。

フェーズ 2 では、以下の方法で調査を行った。

1) 研究デザイン 量的分析的デザイン

2) 調査時期 2021年1月～5月

3) 対象 看護専門学校学生約160名、および近畿圏内看護専門学校学生160名(日本看護学校協議会加入校のうち、近畿地方の84校から8校を無作為抽出し各学校の学生15名〔各学年5名〕を対象とした) *3年課程の学校にて1学年40名ずつ選出+2021年度入学生40名ずつ選出。日本看護系大学協議会加入校のうち、関西・近畿ブロック地域53校から無作為に選定した6校の学生(1、2、4年生を各400名、上限1200人) 計1520人

4) 調査内容 無記名式自記式アンケート調査(web調査)

5) 調査票の構成内容

(1) 成長への動機づけ尺度(上出・大坊, 2012); 20項目

(2) アクティブラーニング尺度(溝上・森・紺田・河井・三保・本田・山田, 2016); 12項目

(3) 「学習経験の質」を問う質問項目(葛城, 2008); 16項目

(4) 医療系学生における職業的アイデンティティの分析(藤井・野々村・鈴木・澤田・石川・長谷・山元・大橋・岩井・N.D.パリー・才津・海山・紙屋・落合, 2002); 20項目

本尺度は、4因子32項目の因子分析を行い、最終的に因子ごとに高い負荷量を示した

上位5項目ずつを採用し、20項目の尺度としている。看護学生のデータ収集もなされている。

* (1)～(4)に記載尺度の著者にメールまたは電話連絡をとり、使用許可を得ている。

(5) 属性: 学校区分(a.看護系大学、b.看護専門学校) 学年、性別、年齢、最終学歴

(a.高等学校卒、b.短期大学・大学・専門学校卒) 就職経験の有無

* 属性別比較のために採用する。年齢については、学校区分による平均値と分布の差の有無を確認するために用いる。

6) データ分析: 量的分析を行い、「成長への動機づけ」と「アクティブラーニング」、「学習経験」、「職業的アイデンティティ」の特徴を、属性別に記述統計と因子分析、相関などを用いて把握した。各要素の関連は、図1に基づき分散分析などを用いて検証する。

分析にはSPSS statistics ver.26を用いる。

4. 研究成果

最終年度となる2022年度は収集したデータの分析・検討を繰り返し行い、分析の一部を東アジアの看護学研究者フォーラム: EAFONS2023 (26th East Asian Forum of Nursing Scholars in 東京)にてポスター発表した。発表題目は「看護学生における主体的学びの姿勢とアクティブラーニングの教育手法実施との関連について」とした。

発表内容では、アクティブラーニング尺度の項目平均値が、アクティブラーニング導入群(以下A群)が比較群(以下B群)に対して有意に高いことが示された。主体的学びの姿勢に関連する要素の項目平均値は、いずれもA群が高いものの、有意差は認めなかった。アクティブラーニング尺度の項目のうち、授業に関する知識量、新しい見方への気づき、多角的視点による授業内容への理解の深まり、についてA群のほうがB群に比べ有意に高かった。すなわち、アクティブラーニングの教育手法を取り入れていることが、知識量の増加や新しい見方に気づき、多角的視点の獲得を支援する可能性のあることが示唆された。

収集データの主な分析では、職業的アイデンティティと主体的学びの姿勢、学習経験の関連について分析を試みた。現在、論文投稿に向けて準備中である。更にEAFONSにてポスター発表した

内容に関連する論文作成についても今後予定している。
研究期間全体を通じての研究成果は、現在投稿準備中の論文に表現されると考える。設定した要素が多く分析に時間を要している点は悔やまれるが、専門職としてキャリアを積む際に重要となる職業的アイデンティティを高めるために、看護基礎教育が効果的に機能するための要素を提起することには役立ったと考える。

26th Asian Forum of Nursing Scholars 2023 でのポスター発表内容：

Relationship between the attitude of independent learning among nursing students and the implementation of active learning educational methods.

(Junko Kondo, Ayumi Kohno, Tomoko Fukuyama, Miyuki Onoi.)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Junko Kondo, Ayumi Kohno, Tomoko Fukuyama, Miyuki Onoi
2. 発表標題 Relationship between the attitude of independent learning among nursing students and the implementation of active learning educational methods.
3. 学会等名 26th Asian Forum of Nursing Scholars 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	福山 智子 (Fukuyama Tomoko) (00559247)	東京医療保健大学・看護学部・教授 (32809)	
研究分担者	河野 あゆみ (Kohno Ayumi) (20401961)	大阪市立大学・大学院看護学研究科・准教授 (24402)	
研究分担者	尾ノ井 美由紀 (Onoi Miyuki) (70324788)	宝塚大学・看護学部・教授 (34520)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------